

2024 年 12 月 23 日

2024 年度 明治大学研究者交流支援制度実施報告書

Yulia Ryzhik 博士（トロント大学准教授）

商学部専任教授 石黒太郎（ホスト教員）

2024 年度明治大学研究者交流支援制度の招聘研究者として、2024 年 12 月 5 日から 12 月 22 日まで、カナダのトロント大学スカボロー校准教授 Yulia Ryzhik 博士をお招きし、明治大学で 2 回の講演と明治大学図書館の視察などをしていただいた。

第 1 回の講演は、12 月 11 日（13 時 30 分から 15 時まで）に和泉キャンパスのメディア棟 M302 教室において、“Milton’s *Paradise Lost* as an English Epic” というタイトルで、おもに学部学生を対象として行われた。

本学の学生およそ 85 名、教員 5 名、学外の研究者 5 名の、合計 95 名ほどが出席した。履修する英語科目の課題の一環として出席した学生が多かったようであるが、学部生向けに依頼していたため、講演の概略は理解できたという学生が少なかつたものと思われる。講演は英語であったものの、日本語を学習中の Ryzhik 博士が日本語の質問を挿入するなど、学生の理解を援ける工夫が施されていた。

16～17 世紀イングランドの宗教改革、内乱、王政復古など、学生が高校時代に世界史で学んだ内容を概観したあと、ミルトンの『失樂園』が西洋の叙事詩の伝統を受け継ぎながらも、独特の文体と構成をもった作品であることを初心者にもわかりやすいように講演してもらった。



講演のあと、学外の研究者（3 名）とともに和泉研究棟で Ryzhik 博士を囲んで懇談する会を開いた。

第 2 回の講演は、12 月 13 日（15 時 30 分から 17 時まで）に駿河台キャンパスのリバティタワー1164 教室において、“Milton in Japan: *Paradise Lost* in Translation” というタイトルで、おもに研究者を対象として行われた。

本学の学生 1 名、専任教員 2 名、ミルトン協会の関係者数名をふくめ学外の研究者 7 名、合計 10 名が出席し、専門的なことを中心に多くの意見、質問が寄せられ、

Ryzhik 博士にとっても有益なフィードバックを得るまたとない機会となったようである。



講演会後、Ryzhik 博士を囲んで夕食会を神保町で開き、ミルトン協会の関係者と交流を深めることができた（5名参加）。

滞在中は宿泊先の和泉インターナショナルハウスから和泉キャンパスの石黒研究室、和泉図書館を利用するほか、駿河台の中央図書館の資料を閲覧するなど、資料収集に励んでいた。石黒は校務などのため同行できなかったが、12月14日から17日は大阪および京都にて、ミルトンの研究者と交流をされたということである。

滞在期間中を通じて、明治大学研究者交流制度のおかげで自分の思い通りの交流活動ができたことに感謝されていた。また上記の講演をふくめ、滞在期間中に知り合えた研究者とのネットワークを活用して、今後の研究に活かしていきたいともおっしゃっていた。石黒との2人によるこれまでの共同研究から博士の研究がさらに大きく発展していくことを願っている。